

## 要約

### がん患者家族の意思決定プロセスと構成要素の研究 —ギアチェンジ期および終末期の支援に焦点をあてて—

#### Factors in the Process and Structure of the "Will Determination" by Families of Cancer Patients -Focusing on the Social Work at the "Gear Change" Stage and Terminal Stage-

ルーテル学院大学大学院人間福祉学研究科  
社会福祉学専攻博士後期課程 柳原 清子

本論文は第1章～第5章で構成され、がん家族の意思決定プロセスと関連する構成要素について分析、考察している。

第1章では現在のがん医療状況と患者・家族をとりまいている問題点を、がんサバイバーに求められる多様な意思決定、ギアチェンジの概念と意思決定の難しさ、臨死期における鎮静（セデーション）の意思決定の困難さ、インフォームドコンセント（同意）と余命告知の問題、医療者と患者・家族の認識のズレの発生要因、の5項目で意思決定に関連する課題や問題点を提示した。

第2章では、わが国および海外の家族意思決定に関する研究レビューを行った。先行研究にはエビデンスとなる、意思決定に関連する要因、意思決定プロセス、時間経過の中で意思決定の変化等の実証研究が少ないことがわかった。同時に終末期から臨死期の家族は追い詰められ意思決定としての判断が困難になるという知見が得られた。

第3章では、がん家族の意思決定および家族アセスメントに関する概念と理論および研究を取り上げた。意思決定の概念を整理し、家族システム理論、家族危機理論および家族の予期悲嘆とグリーフの研究を論述した。

第4章は調査研究報告である。がん家族のインタビューデータを質的帰納法的手法で分析し考察した。そして第5章では家族の意志決定プロセスと関連する構成要素の考察を行った。第4章および第5章を通して分析・考察したのは次の5点である。

1つは、意思決定内容とその特徴である。家族が行っている意思決定の内容は、“経済、生活の課題解決”“家族・身内の役割分担”“他者に知らせる”“医療（者）との折衝”“場の決定”の5つであった。構造的に、中核にくるのは“経済、生活の課題解決”と“医療（者）との折衝”であり、それに関連して、知らせることや、役割分担、療養の場所の決定がなされていた。この構造が成り立つのは、家族が「暮らしという日常性」と「看病と死の非日常性」を生活しているからである。

2つめとしては、意思決定における選択の幅や決定のしかたが時期によって違ってくることである。がん家族は発病～ギアチェンジ期には、模索しながら選択肢の幅を広げていこうとするが、終末期から臨死期になるにしたがって「するかしないか」という二者択一的な選択となり限定的なものとなる。その決定の様相は前者が“模索の中の決定”であり、後者は“限局され緊迫の中の決定”であった。

3つめは、意思決定プロセスと時期による決定プロセスの変化である。がん家族の意思決定のプロセスは、①状況認識と自己認識さらに関係認識をベースとして、②決定の態度を伴って、③選択肢と優先順位が検討され、④決定が行なわれていた。この

①から④までの意思決定プロセスは、発病期からギアチェンジ期の“模索の中の決定”時期のものであり、終末期から臨死期の“限局され緊迫の中の決定”では、状況認識および自己認識は関係認識に取り込まれる形で関係性の認識のみで、選択肢と優先順位の検討がされるゆとりもなく、家族固有の態度を伴って、一気に決断されていくのであった。

さらに4つめとして、意思決定を構成する要素（内容、様相、プロセス）が、がん家族の状況や認知および対処とどう関連するのか、その構造を明らかにした。

意思決定という「対処」は、身内の経験や近所の手前という世間体や風潮、および医療者その他からもたらされる情報等の「資源」と、状況認識、自己認識、関係認識の「認知」が関係してなされる。また知らせる・知らせないという決定が「資源」をコントロールするというように、資源と認知と対処は相互に関連していた。また時間経過との関連では、終末期から臨死期の「資源」は、累積ではなく限局され《選択肢の限局化》がはかれること、「認知」のゆらぎは、関係認識のみを全面に出した特定領域だけの《ゆらぎの希薄化》がおき、「対処」としての意思決定は緊迫し《対処の特定化》が起きてくるのであった。

5つめとしては、家族の意思決定が死別後のグリーフに与える影響について考察した。蚊帳の外に置かれた家族成員のグリーフは、無力感や罪責感、疎外感等で苦しむことになる。したがって、家族の相互交流の中で合意形成ができるような支援が必要である。

以上のように、本論文ではがん家族の意思決定の内容、プロセス、各時期の意思決定の特徴、意思決定の各要素をモデル化し、家族の意志決定プロセスと関連する構成要素について論述した。